



## 自由遊びの指導

高木節子 神山孝子  
森田礼子 山本和子

昭和三十二年から新宿区幼稚園では「自由遊び」の共同研究をおこない、当園は、「自由遊びと単元の結びつき」を受けもち、昨年研究発表をおこなった。この研究をすすめているうちに、「自由遊びと集団指導の結びつき」に疑問を持つようになったので、本年はこれを研究テーマとして取りあげることにした。

### 自由遊びについて

自由遊びとは、幼児が遊びにおいて自発的に自己選択をおこない、遊びに自己充実を感じている状態であると私たちは考えた。この状態における幼児は最も周囲のものを自分にとりいれやすく、また生活の発展もたらされやすい。幼稚園の教育計画は、この状態を通して実施されることがのぞましい。すなわち自由遊びは放任遊びではなく、待ち時間的なものでもない。当園では幼児の生活全体が、幼児の状態を保ちながら教育計画が実施されるように、場・環境の設定、教師の指導などを媒介と考えることによって自由遊びの意義を失うことなくおこなってきた。

### 自由遊びと単元との結びつきについて

幼稚園の生活はすべて保育計画のもとに展開されている。このことは園の中で子どもが自由に遊んでいる場合にもいえる。また、単元活動を展開するにあたってはいろいろな方法が考えられるが、その中でも単元活動が自由遊びの形態で子どもに経験されるようにするのが、きわめて望ましい方法と考えられる。

それにはどのような方法ならびに配慮が必要であろうか。単元と自由遊びの特徴的性質とと思われるものをあげ、また共通すると思われる性質をあげることによって、単元と自由遊びに共通する性質と、それぞれの特質を明らかにし、「移行」に関する指導方法を見出すことをしてみた。

その結果、次のような指導の基本的な立場を見出したのである。

○発達に則した単元を用意し、興味豊かな自由遊びを展開するよう心がける。

○決断的に選択した単元から、自発的選択による自由遊びを展開

されるように心がける。

○自発的に選択しておこなわれている自由遊びから、その単元に必要であったねらいを生かせるような機会を捉えて、単元へ導くように心がける。

○興味豊かにおこなわれている自由遊びから、発達に則した単元活動が促進されるように心がける。

○単元活動も自由遊びも、個人的な形、集団的な形のどちらでもおこなわれるものであることを承知していること。

○保育の場では、どちらにも教育的意図が何らかの形で滲透していること。

○単元から自由遊びへ移行する場合は、単元のわくをはずしなからおこなうので、単元から自由遊びへ、自由遊びから単元へのジグザグの形をとっておこなわれる。

○自由遊びから単元へ移行する場合は、単元的なわくをたくさん用意して単元の方へ近づけてゆく。

以上のように幼稚園における単元と自由遊びの結びつきを考えてゆくと、幼稚園における幼児集団が問題になってくる。

### 自由遊びと集団指導の必要性について

幼稚園における幼児の生活が、家庭における生活と異なる大きな点は、それが「幼児集団」において営まれることである。この集団に幼児が入って、しかも他の子どもたちに圧迫されたりして自己充実が阻まれることなく、また集団の中で自分を見出し、皆と協調し

ながら自己を生かしてゆくようにすることが望ましい。

自由遊びの研究は、個人を中心とした問題をとらえることであるが、幼稚園における自由遊びは「集団における自由遊び」でなければならない。

幼稚園生活には集団生活をおこなうのに必要な規律とか、集団生活にともなう責任とかがある。自由遊びについてみても、ただ自己充実が個人においておこなわれればそれではなく、個人の充実は集団の充実にともなって深まるものであることが必要であるだろう。このような観点からは「集団指導とは何か」それを明らかにする研究が望まれた。

### 集団が要求する個人行動の基礎について

集団生活では、集団が個人に要求するきまりがある。それが守られなければ集団生活は維持され発展されない。次に集団教育において個人が最も守らなければならない基礎的行動をあげよう。

「きまりを守る」ということと「責任をもつ」ということは、相互に関連があるが、次に指導の実際に役立つことを目的として、次のように分類した。

#### 1、きまりを守る

- ①時間をまもる
- ②きめられた場所であそぶ
- ③園の生活習慣(用便、食事、手洗い)の約束をまもる
- ④教師や友だちとの約束をまもる
- ⑤昨日約束した遊びを今日してあそぶ
- ⑥みんな協力する
- ⑦順番をまもる
- ⑧人のじゃまをしない
- ⑨遊具

をゆずりあってつかう ⑩遊んだ後しまつをする ⑪園の遊具を使ったら元の場所にしまふ

## 2、責任をもつ

○自分のことは自分でする ○自分のいったことや行動に責任をもつ ○自分の役割に責任をもつ

## 3、役割をはたす

①友だちの話をきく ②自分の考えをはっきり相手にわかるように話す ③人の意見をきく ④自分の意見をいう ⑤友だちの好意をうけいれる ⑥友だちと協力して仲良くあそぶ ⑦友だちに親切にする ⑧困っている友だちを助けてあげる ⑨困った時は友だちに助けを求める ⑩間違っている友だちに注意をする

以上のことについて発達に合わせて、無理のないように指導されていかなければならない。

## のぞましい集団について

幼稚園生活において、自由遊びを生かすのぞましい集団とはどういうものか。幼児はこの年齢に達すると、相当相手を意識し、友だちを求め協調しようとする。この特性をいかして「集団における個人の基礎的行動」が、無理なく自然に各々の身につくようにしなければならぬ。そうなることにおいて、友だち意識が育ち、各自が集団の一員であるという自覚と責任を持って互に協調し仲良くしていこうという意欲を持つようになることがのぞましい。

のぞましい集団は、個人個人が集団内の相手を認め自己を生かしながら集団の活動を高めていく集団である。

遊びにおいては、互に考えを思う存分出しあい、相談した上で一つの線に協調し、これに喜んで参加してあそび、各々が満足感をもつことができ、仕事の上ではひとりの考えに引きずられることなく互に人の意見を尊重して、そのことがよりよい結果をうむように考え合い、互に持場をきめて、その役割を責任をもってはたし、その結果が皆の創意の結集となるようになる集団活動であることが望ましい。

教師はこの指導にあたって、つとめて子どもたちの前面に立つことなく、人間関係に眼をむけ、生活全般が、幼児の手で規則づけられ、子どもによっておこなわれていくようにすることが望ましいのである。

## 集団指導の教師の留意点

幼児に集団意識を持たせて活動を高めていくためには、教師のいろいろな配慮が必要である。それを具体的に列挙してみると、次のようになる。

### 1、友だちづくり

入園当初においては、家庭から離れた不安をとりのぞくためにも、友だちをつくる必要がある。

- ①教師がまず友だちとなる
- ②遊具材料を媒介とする
- ③近所同志、さそい合わせる

このような方法により、子ども同志がふれあう機会を多くもたせ、話し合って親しませるように仕向ける。

## 2、グループづくり

集団の中の一員であることがわかるようにするために、また、交友関係をひろめるために必要と考えられる。

- ①好きな友だち同志でグループをつくらせる
- ②意図的につくる(積極的、消極的、両方をまじえて、グループの内でのことがいけるように配慮する必要がある)
- ③遊び中心にグループを作らせる

このような方法により、グループの意識を高め、互にみとめあつて、一しょにあそぼうとする気持(協調)をもたせるように仕向ける。

## 3、当番をつくる

子どもたちでグループを形成したり、クラスを運営していくために、当番が必要となる。

- ①一日または三日交替で誰もがなる
- ②当番の役割には次のようなものがある
  - 皆の世話をする(困っている子、遊べない子、けんか)(集合、食事、手紙くばり、一日の反省)
  - 先生と話し合い、これを伝達する
  - その他

この方法により、だれもが当番の体験をして、誰もがリーダー

になれる可能性を持つようにしむける。

## 4、反省ならびに明日の計画

遊びが子どもたちのものとして、意識されるには、子どもたちの間で相談させ、また反省させることが必要となる。

- ①当番を中心としてグループごとに、今日の遊びのたのしかったこと、困ったことをはなし合わせる
- ②明日の遊びの相談させ、発表させる

この方法により、グループ意識をつよめ、また、グループ同志の交流をはかって皆で楽しく遊び、互に努力するようにしむける。

発表のときは、自分の意見をはっきりのべ、人の意見も尊重していき、集団生活を向上させるのに必要な態度が身につくようにする。

## まとめ

自由遊びと集団指導について述べてきたが、これにより左記のようないふことがいえる。

- 1、友だち意識が出てきた。
- 2、友だちと遊べない子が遊べるようになった。
- 3、友だち範囲が広がった。
- 4、思いやりが深くなり、友だちの世話をするようになった。
- 5、消極的な子が積極的になってきた。
- 6、一時的ではあるが、誰れもがリーダー的なふるまいをとれるようになった。

7、友だちの意見をきいたり協力するようになった。

8、リーダーとしての責任のある行動を大部分の子がとれるようになった。

この結果からも理解されるように、消極的な子は積極的に自己を生かしていくことが容易となり、友だち意識が育って、わけへだてなく友だちと遊べるようになってきている。

自由遊びを主とした保育では、幼稚園生活全体の意識は早くもてようになるが、友だちとの深いつながりが少なく、まさつも少ないようである。しかしグループ指導を中心にとすると、自己主張が強くなるが、友だちをみとめることもまたつよくなってくる。そこで自由遊びをいかした集団指導をおこなうことにより、全体としての意識を育て、まさつなくグループ意識を高めていき、友だち同志をみとめ、いたわり協調しあって、自分も他の人も共にのびていくように指導していくことが望ましく思われる。

まただれもがよいリーダーになれるように配慮し、自分たちの手で遊びを工夫・創造していけるようにもってゆきたく思っている。

年少組においては、友だちをさそって遊ぶ程度のものがみられ、リーダー的な役割は、自然発生的なものをとらえての指導ならば可能であるが、それを積極的に教師が育てていくことは、なかなか困難のように思われる。しかし、友だち意識が高まり、組のまとまりに気づいて組のことが少しずつでも考えていけるようにもっていきたい。

(東京・牛込幼稚園)

予

告

### ◎ 第九回 教育実際指導研究会

期日 昭和三十五年六月

三日(金) 四日(土) 五日(日)

会場 お茶の水女子大学付属幼稚園

主催 お茶の水女子大学付属幼稚園

幼児教育研究会

### ◎ 幼児教育講習会

期日 昭和三十五年七月

二十一日(木) — 二十五日(月)

会場 お茶の水女子大学講堂

科目 第一部(午前) 幼児教育の理論  
第二部(午後) 幼児のリズム指導

主催 日本幼稚園協会

お茶の水女子大学付属幼稚園内